

人が警察官を銃撃する事件が起きた。そのニュースに衝撃を受け、「人種差別をなくすには何が必要か」という問いをアメリカでぶつけた。

共同通信社の尾崎元ニユーヨーク支局長の答えは「時間」だった。「1862年に奴隷解放宣言が出てから、公民権法制定、黒人大統領就任などがあつた。黒人の地位は時代とともに向上している。難しい問題だが、時間とともに差別は減るだろう」と語った。この答えに共感する一方、



### LGBTと共に生きる

堀尚裕 長野高専1年・南木曾町

LGBTという言葉を知っているだろうか。性的少数者（レスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）のことだ。ワシントンやニューヨークで私が尋ねた人は皆、「普通のひとと同じように彼らを尊敬している」と言った。なぜ反対意見に出合わないのか。共同

通信社の尾崎元ニユーヨーク支局長はこう分析した。都市部では多様性が認められてきている。世界規模で見れば、中東やアフリカそしてアジアではまだまだ差別がある」

心にあるからだ。心が変わらないうちに本場の解決に至らうか。人種差別に限らず、心の中で人を一度も差別したことがない人がいるだろうか。最後に取材したジョン・ブレアさん(65)は「教育」を挙げた。取材を終えてから、ノートに私へのメッセージを書いてもらった。「自分にしてもらいたいことを、ほかの人にも思いたい」。聖書の言葉だと思ひ当たった。一人一人の心の一新こそが、社会を変える原動力だ。

# アメリカの姿に学ぶ



アメリカの同世代と交流

